



第 21 号

R1. 12. 10

文責 倉迫

建学 144 年

校内人権旬間③

今回も、(1) 教材名 (2) ねらいや学習内容 (3) 子どもたちの反応等を載せます。

【2年2組】

- (1) ある日のくつばこで
- (2) 靴隠しをした友だちを見たのに、何も言えなかった主人公のもやもやした気持ちと、勇気を出して言おうと決心した時の晴れ晴れとした気持ちを比べることで、正しいと思うことを行うことの良さを知り、進んで行おうという気持ちを育てる。
- (3) 「どうして、もやもやしていたのだろう。」
 - ・言ったら文句を言われるかも・・・でも、言ったほうがいいかなと迷っていた。
 - ・言ったら自分が靴を隠されるかも。「心がすっきりしたのはどうしてだろう。」
 - ・お母さんから言われたことを思い出して、勇気を出そうと思えたから。
 - ・「いけないよ。」とちゃんと言おうと決めたから。後日、学級活動の授業で、「言いたかったけれど言えず、もやもやしたこと」や「言えてすっきりしたこと」等、生活を振り返って話し合いを行った。

【6年生】

- (1) ハンセン病に学ぶ ～ 楽しみにしていた温泉旅行
- (2) ○写真を見て菊池恵楓園について知る。
 - アンケート結果から「ハンセン病について知り考える」というめあてを持つ。
 - 資料をもとに、ハンセン病について知る。
 - ①らい菌による感染症であること ②非常に感染力が弱いこと
 - ③治ること
 - なぜ差別や偏見があるのかについて考える。(間違った見方・考え方)
 - 資料「楽しみにしていた温泉旅行」を読み、旅行系の言葉を考える。

- グループや全体で考えを出し合う。
 - 学習の振り返りをする。
- (3) ハンセン病や恵楓園については、知らない児童が多かった。写真を見たり資料を見たりしながら、熱心に学習することができた。特に、隔離政策を国が行ったということやハンセン病回復者の方々への差別や偏見（差別の手紙・宿泊拒否事件）については驚きが大きかった。旅行係になって何と返すかを考える場面では、自分の言葉でしっかりと差別のおかしさを返す言葉を考え、友だちと伝え合うことができた。
- ・ハンセン病についてよく知らなかったので、家で調べ症状や差別のことなど、だいたいはわかっていたが、今日、実際の体験を聞いてとても衝撃を受けた。ひどい手紙を送ったり宿泊を拒否したり、なんてひどいことをするんだと思った。ハンセン病回復者の方々が出したように、手をさしのべることができる人になりたい。
 - ・水俣で学習したように、知らないことを勝手に言うてはいけないと思った。みんなへの願いでもあったように。周りの人に合わせるのではなく正しいことをしたい。(伝えたい)
 - ・ハンセン病は水俣病の差別と似ていた。自分も真実を知ることが大事だなと思った。真実を知らないことが差別につながるんだなと思った。
 - ・「楽しみにしていた温泉旅行」の話を読んで、私はものすごく頭にきました。でも、自分ももしかしたら人に差別をしていたかもしれないから、差別じゃなく励ましの言葉を言う方の人間になりたいと思った。
 - ・ハンセン病についてあまり知らなかったし、知ろうとしてなくて、この機会があったから知ることができたけど、機会がない人たちは知らないのもっともっとみんなに知ってほしい。もし、今も差別している人がいたら、その人に誤解であることを知ってほしい。学習の中で「真実を知ることの大切さ」「知らないことは罪」が特に心に残った。
 - ・差別の手紙や温泉旅行の話が実際にあったことで残念に思ったけど、はげましの手紙を書いている人たちもいてよかったと思った。差別の手紙を書く人がおかしいと思われるくらい、はげましの手紙を書く人がいっぱいあればいいなと思った。「みんなへのお願い」であったように、手を差し伸べることができる人でいっぱいになったらすごくいいなと思った。実際にあったことだからこそそのひどさがわかったし、これからどうしていけばいいかがわかった。

各学年の人権学習の内容について掲載しました。子どもたちは、このような学習を通して、少しずつ人権の大切さを学んでいきます。